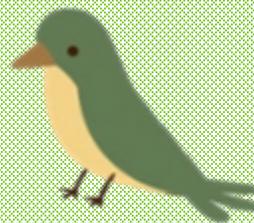


# FD NEWS

## ～ルーブリックとは何か～

### Contents

1. ルーブリックについて
2. FD学習会「大学で教えるためのルーブリック【基礎編】」の概要について
3. 前期授業改善アンケート
4. 刊行物の紹介
5. 書籍の紹介



### 発行にあたって

2018年11月26日に中央教育審議会から答申された「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」では、高等教育が目指す姿として、「何を教えたか」から「何を学び、身に付けることができたか」への転換が必要であり、学修の評価についても、学年ごとの期末試験での評価で、学生が一斉に進級・卒業・修了するという学年主義的・形式的なシステムではなく、個々人の学習の学修の達成状況がより可視化されることが必要と提言されています。そのため、成績評価においても、多様な評価基準が必要となってきます。

今号では、パフォーマンス等の定性的な評価や、質的評価、直接評価に有効な「ルーブリック」について、2021年8月25日に開催した「FD学習会」を紹介をしつつ、理解を深めたいと思います。

# 1. ルーブリックについて

ルーブリックという言葉を目にしたことがある、あるいは既に実際に利用しているという先生方も見えるかと思います。昨今、高等教育においては、「何を教えたか」から「何を学び、身に付けることができたか」へのパラダイム転換が必要と言われ、これに伴って成績評価も多様化してきています。しかしながら、特にパフォーマンスを評価する時には複数の要素が含まれるため、評価しづらい面もあります。その時に一つのツールとしてルーブリックが有効と言われてはいますが、実際、文部科学省等がどのように説明しているのか見てみることにします。

米国で開発された学修評価の基準の作成方法であり、評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される。記述により達成水準等が明確化されることにより、他の手段では困難な、パフォーマンス等の定性的な評価や、質的評価、直接評価に向くとされ、評価者、被評価者の認識の共有、複数の評価者による評価の標準化等のメリットがある。

コースや授業科目、課題(レポート)などの単位で設定することが可能であり、学位プログラム全体を通じての学修目標の達成度評価や、学年毎の達成度の把握等に用いることもできる。学位プログラムやカリキュラム全体を通じて使われるものは、プログラムルーブリックやカリキュラムルーブリックと呼ばれる。また、学内の異なる学位プログラム間で共通に使用される全学共通ルーブリックや、米国AAC&U (Association of American Colleges & Universities)が複数機関間で共通に活用することを想定して開発したVALUEルーブリックなど、様々な形で活用が進められている。

出典：中央教育審議会大学分科会，2020，『教学マネジメント指針』P75より

評価水準を示す「尺度」と、各段階の尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される、学習を評価する際の基準の様式。どのような内容が習得されていればその尺度に達しているかの判断ができるよう、各尺度の説明は記述形式で表される。そのため、定量的に表しにくい、パフォーマンスの評価等、定性的なものの評価の際に活用される。例えば、成績評価の場面においては、「優」、「良」、「可」といった評価の尺度に対して、それぞれ「〇〇が適切に出来る」、「〇〇が出来る」、「〇〇について理解している」等の特徴の記述を行う。ルーブリックが予め評価者により作成され、学習者と共有されていることにより、学習者は期待されるパフォーマンスがどのようなものか理解して学習を進めることができる。また、ルーブリックはより公平な評価や、評価結果に対する評価者と学習者の間のフィードバックにも役立つとされる。

出典：独立行政法人大学改革支援・学位授与機構，2021，『高等教育に関する質保証関係用語集（第5版）』P43より

このようなルーブリックの説明はありますが、具体的にどのようなものか。イメージとしては以下のような様式になります。(あくまでも一つの事例です。)

課題A レポート「自己分析：自分の強みと弱み」ルーブリック (12ポイント満点)

自己啓発において、自己分析は重要なステップである。授業で習ったツール（もしくはそれに類するもの）を1つを使って、①自己分析を行い、その結果として、②自分の強みと弱みをまとめなさい。その際、それらを裏付ける具体的なエピソードを必ず添えること。また③強みを伸ばし、弱みを補強するためにはどのような自己啓発が今後必要となるかについても記述すること。(1,600字程度、A4用紙。メールもしくは紙で提出すること。紙で提出する場合はこのルーブリックを裏面につけてホチキスでとめること。締切り：メール—6月15日23時59分、紙—6月15日授業終了時)

	素晴らしい！ (2ポイント)	もう少し！ (1ポイント)	残念 (0ポイント)
①現状分析	自らの強みと弱みについて、授業で紹介したツールもしくはそれに類するものを使った分析がなされている。	自らの強みと弱みについて、個人の主観による分析がなされている。	求められている内容が理解できていない。
②証拠のある記述	強みと弱みを裏付ける複数のエピソードは、過去の出来事、他者からのコメント、データに基づいており説得力がある。	強みと弱みを裏付けるエピソードは、主観的なものが多く、客観性にやや欠ける。	具体的なエピソードが記述されていない。
③目標の明示	今後必要となる自己啓発について、具体的に、測定可能な目標が設定されている。	今後必要となる自己啓発について、曖昧な目標が設定されている。	今後必要となる自己啓発について、目標が設定されていない。
④手法の選択	今後必要となる自己啓発について、具体的に、適切な手法が記載されている。	今後必要となる自己啓発について、手法が記載されているが、具体的でないか、適切でない。	論理的な順序で組み立てられた文章ではないので、読者はその内容を理解できない。
⑤文章構成	文章は論理的な順序で記述され、読者は内容を容易に理解することができる。	文章は論理的な順序で記述されていないことがあり、内容を理解するのは不可能ではないにせよ、読みにくい。	論理的な順序で組み立てられた文章ではないので、読者はその内容を理解できない。
⑥日本語	漢字や文法上（改行の仕方など）の誤りがない。	漢字や文法上（改行の仕方など）の誤りは5個以内である。	漢字や文法上（改行の仕方など）の誤りは5個以上ある。

出典：日本高等教育開発協会 ルーブリックバンク

こうしたルーブリックを活用することで、次のような効果が期待できます。

- 1) パフォーマンス評価など、テストでは測定が難しい場合に客観性を保つことができる。
- 2) ルーブリックが予め評価者により作成され、学習者と共有されていることにより、学習者は期待されるパフォーマンスがどのようなものか理解して学習を進めることができる。
- 3) 学生にタイミングよく迅速かつ質の高いフィードバックができる。
- 4) 最初にルーブリックを策定する際には時間がかかるものの、その後は時間削減ができる。
- 5) 同一科目を複数教員で担当する場合、同じ評価ができる。

# 2. FD学習会「大学で教えるためのルーブリック【基礎編】」の概要について

2021年8月25日、ZOOMによるオンラインにて、名古屋大学の加藤教授による「大学で教えるためのルーブリック【基礎編】」と題したFD学習会を開催しました。概要は以下の通りです。

## テーマ：大学で教えるためのルーブリック【基礎編】

名古屋大学高等教育研究センター 加藤 真紀 教授

1990年代以降、教育の世界にも経営理論・手法としての目標管理の考え方が導入され、2000年代以降、アカウンタビリティ(説明責任)を求める傾向の下、大学が学生に学習成果を獲得させ、教育プログラムの有効性を示すことが必要となってきており、大学でも評価結果を示すことが求められてきている。

アメリカのブルームによれば、評価には2種類あり、学習成果の把握を目的とする「総括的評価」と学習活動の改善を目的とする「形成的評価」に分けられる。この2種類の評価は、形成的評価により学力を伸ばし、総括的評価の合格水準に達することをサポートすることで使い分けができる。

大学教育で使われる評価方法は、アクティブ・ラーニングへの転換などにより、学ぶ内容や教え方が多様になったことに併せて評価手法は多様化した。実際の授業でどのような評価方法を使うのかについては、授業の目標による。

多様な評価手法はあるものの、教育評価には評価しづらいことが多々ある。評価しづらいのは、明確な要素分けとその基準がないからであり、例えば、レポートの評価の場合、課題の理解、内容の論理性、文献引用、誤字脱字など複数の要素で構成される。こうした評価しづらいものを測るための手法としてルーブリックが挙げられる。ルーブリックとは、ある課題を複数の構成要素に分け、それぞれの評価基準を満たすレベルを詳細に説明したものであり、パフォーマンス課題の評価軸を可視化することができる。

ルーブリックは、①課題、②評価観点、③評価尺度、④評価基準の4つの要素で構成される。

まず、①課題は、教員が学生に期待する「行動」が含まれたものであり、目的と目標を明確にすることが重要となる。②評価観点は、学生の学習の指針となるものであり、課題の目的が過不足なく含まれることが重要となる。③評価尺度は、1～5程度の段階で示すものであり、使う言葉は、明確かつ配慮が必要となる。最後の④評価基準は、求められるスキルやパフォーマンスの到達度を1つずつ具体的に記述することになるが、隣との違いを明確に書き分けることが重要となる。

実際にルーブリックを作成する方法は、自分で作る方法と既存のルーブリックを参考にカスタマイズする方法があるが、最初は後者から進めた方が良い。

ルーブリックは評価を効果的・効率的に行えるため、評価がぶれない、採点時間が短縮される、課題の意図・期待を学習者に明確に伝えることができる、タイミングよくフィードバックできる、授業改善に使えるなどの利点がある一方で、ルーブリックを事前に見ることで、学生がいい点数を取ることをばかり考える、妥当性を備えたルーブリックの開発には相応の時間がかかるなどの不利点もある。

### 評価の大きな区分： 2種類の評価 (Bloom 1968)

#### ■総括的評価

目的：学習成果の把握

形式：合否判定など

時期や対象：学習終了後に行われ、広い範囲を対象

#### ■形成的評価

目的：学習活動の改善

形式：フィードバックなど

時期や対象：学習中に行われ、比較的狭い範囲を対象

※「形成的側面を持つ総括的評価」、逆もあり

7

### ルーブリックの構成： 4つの要素

課題		評価尺度	
課題A レポート「自己分析」自分の強みと弱み」ルーブリック (12ポイント満点)		評価尺度	
評価観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>①現状分析</li> <li>②強弱のある記述</li> <li>③目標の明示</li> <li>④手法の選択</li> <li>⑤文章構成</li> <li>⑥自己評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①現状分析</li> <li>②強弱のある記述</li> <li>③目標の明示</li> <li>④手法の選択</li> <li>⑤文章構成</li> <li>⑥自己評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①現状分析</li> <li>②強弱のある記述</li> <li>③目標の明示</li> <li>④手法の選択</li> <li>⑤文章構成</li> <li>⑥自己評価</li> </ul>
評価基準		評価基準	
<ul style="list-style-type: none"> <li>①現状分析</li> <li>②強弱のある記述</li> <li>③目標の明示</li> <li>④手法の選択</li> <li>⑤文章構成</li> <li>⑥自己評価</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>①現状分析</li> <li>②強弱のある記述</li> <li>③目標の明示</li> <li>④手法の選択</li> <li>⑤文章構成</li> <li>⑥自己評価</li> </ul>	

ルーブリック自体の典拠：日本高等教育開発協会 ルーブリックバンク

### まとめ

1. 教育評価が求められる、かつ多様化する時代に
2. 評価しづらいものにルーブリックは有効
3. ルーブリックとは：パフォーマンス課題の評価軸を可視化
  - 構成：4パートで成り立つ
  - 作り方：既存も参考に作成
  - 使い方：学生の参加も
  - 利点・不利点：評価を効果的・効率的にするが、不利点も指摘されている
4. 今後の日本の大学でのルーブリックの活用：オンライン化の内容次第

42

# 3. 前期授業改善アンケート

## ○授業改善アンケートの回答率

令和3年度前期授業改善アンケートを実施しました。前期実施の結果は、10月末に発刊される「授業科目別報告書」にまとめ、学務センター、附属図書館、閲覧コーナー(天白Cタワー75連絡ブリッジ、ナゴヤドーム前C学習サポートルーム前)にて閲覧できるようにいたします。

教員区分	アンケート回答率
専任教員	50.8%
非常勤講師	54.0%
全体	51.8%

※実施期間:2021年7月1日~7月27日

## ○授業改善アンケートの結果

令和3年度前期授業改善アンケートの結果が揃いました。大学全体として、「成長実感」、「授業満足度」のポイントは上昇していますが、自学自習時間については課題が残る結果となりました。

### 【全体】

集計授業数	
常勤	439
非常勤	345
合計	784

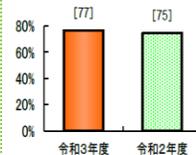
集計授業における総履修者数(延べ)	61,896人
アンケート回答者数(延べ)	32,063人
アンケート回答率	52%

### ■主要項目の評価

#### 【成長実感(%)】

この授業を通じて、あなたは知識やスキルを身につける等、成長を実感することができたと思いますか

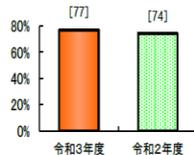
(強く+ややそう思うのスコア)



#### 【授業満足(%)】

この授業の進め方・内容や、あなた自身のこの授業への取り組みや成果を振り返った時、この授業について、全体として満足しましたか

(強く+ややそう思うのスコア)



#### 【自学自習時間(%)】

あなたは、この授業のために1週間あたり授業外でどのくらい勉強をしましたか

	週3時間以上	週1時間~3時間未満	週30分~1時間未満	週30分未満	勉強していない	無回答
令和3年度前期 (N=32063)	5	29	33	22	12	0
令和2年度前期 (N=33204)	7	39	31	15	8	0

# 4. 刊行物の紹介

本学Webサイト上で、各種刊行物を公開しています。ぜひご覧ください。



FD・SD活動報告書



教育年報



授業改善アンケート結果報告書

<https://www.meijo-u.ac.jp/academics/education/center/publication/>

# 5. 書籍の紹介

大学教育開発センターでは、FD、SD関連書籍の貸し出しを行っております。興味のある方は下記までご連絡ください。



本書は、「ルーブリック」という、採点時間を節約するだけでなく、効果的なフィードバックを与え、学生の学習を促す評価に関わるツールを紹介しています。ルーブリックの作り方から使い方、さまざまな授業場面での活用方法までを具体的に書かれています。

大学教員のためのルーブリック評価入門(高等教育シリーズ)



以下のURLから、様々なルーブリックをダウンロードすることができます。※Internet Explorerから閲覧不可  
<https://www.jaedweb.org/rubricbank> 日本高等教育開発協会 ルーブリックバンク

**Meijo University**

名城大学 大学教育開発センター 〒468-8502 名古屋市天白区塩釜ロー一丁目501番地  
 TEL:(052)838-2032 FAX:(052)833-5230 E-mail: [edcenter@ccmails.meijo-u.ac.jp](mailto:edcenter@ccmails.meijo-u.ac.jp)